

日本経済新聞

発行所 日本経済新聞社
東京本社 〒100-8066 ☎(03)3270-0251
東京都千代田区大手町1-9-5
振替口座 00130-7-555番

第2部 世代間摩擦を超えて②

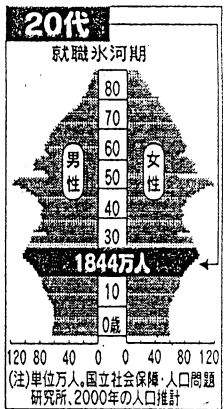
新卒者は年俸制

新卒者は全員が年俸制
1. 早大四年の樋口和之
(22) は来春、こんな世界に飛び込む。就職先はオンワード樺山。雇用契約は一年ごとの更改制で、担当分野の成果が毎年問われる。「プロシカ要らない」。

社長の広内武(56)の人事改革にこたえる樋口は倍率二千倍の関門を乗り越えた。両親は終身雇用制の他社を勧めたが、「常に追い込まれた状況にいる方が成長できるはず」と決断。ブランドの品をそろえたいことを決める企画担当者を目指す。二十代が企業に身を置く日本経済は戦後最大の不況の中。就職は氷河期と言われ、年功序列や終身雇用は崩れ、右肩上りの経済への期待は最初からない。実

20代経済ニッポン

職拓く実力派



不況バネに人材結集

だが、最近「聞いたことのないベンチャー」に決める回数、過半数を占めた。と云っている。
岸田慎一郎(29)はそんな一人だ。「いつも会社の看板頼み。独力で勝負した。五年半勤めた伊藤忠を退職し、シカゴの現地企業に移籍。外資企業の日参入を支援する会社を興すと準備中だ。「米国で働きたい。転職先を紹介してくれ」。相談してきた友人

力主義はこれまで以上に厳しくなり、それを当然の条件として受け入れる「二期生世代」である。
人事に異変
六年ぶりに米国から帰った伊藤忠商事の人事部
長、富田博(50)は若い世代の意識の変化に驚く毎日。人事面接では「責任と権限を与えてほしい」と訴えられる。採用面接でも希望業務は極めて具体的だ。内定者を奪われるのはライバル商社と相場が決まって

大手製薬会社を辞め、会社を興した奥田 義一さん(手前) 東京・西新宿



だが、大手ソフト会社OB(64)など十代の見聞の制松の立の乗れからオ(急ぐ)者にの歴の層の経

授やソフト開発の会社を興した。千葉大を卒業して就職した大塚製薬を二年で辞め、オーストラリアで暮らした。目に焼き付いたのが、砂漠地帯や山奥でパソコンを駆使して働く人々。自宅に負の希望者を募集したところ、全国から三百人が集まった。希望者は若手を中心に、九七年末には法整備を待たずにストックオプション

求む即戦力

「日本の地方都市にも才を求む即戦力の人材。社長は即戦力の人材。社長の松島剛(25)が採用するの長登長は自らの親世代に近い四十八歳だ。「優秀な人」には長く勤めてほしい。九七年末には法整備を待たずにストックオプション